

チームサポートの
理論と実際

【第7回】

効果的なアセスメントの具体例

兵庫教育大学大学院助教授
八並 光俊

1 アセスメント実施上のポイント

前回、アセスメントの位置づけや重要性についてふれ、アセスメント時のシートなどを提示しました。今回は、実際のアセスメントの具体例を、私の研究に基づいて部分的ですがお話ししたいと思います。三次的援助の対象となった中学2年生の神戸A子さんのアセスメントを例にします。以後、名称や内容はすべて架空です。

A子さんは、1年生の2学期の終わり頃から荒れはじめました。遅刻や無断欠席、茶髪・服装の乱れ、異性との交友、深夜徘徊、飲酒・喫煙、万引きによる補導などの問題行動に、学級担任は苦慮していました。2年生になっても、問題行動はおさまらず、困り果てた学級担任が、チーム援助を要請してきました。

生徒指導主事がコーディネーターとなって、アセスメント会議を招集します。参加者は、学級担任、1年生時の学級担任、2年生の生徒指導担当、教育相談担当、養護教諭、スクールカウンセラー、学外の大学教師の計8名です。アセスメント会議で重要となるのは、生徒指導主事による事前準備とバランスのとれた生徒理解の二点です。

第一は、コーディネーター役の生徒指導主事が、A子さんの多面的な生徒理解が行えるように、前回提示したアセスメントシートに関連した様々なデータを準備することです。たとえば、学級担任に依頼し、成績データをグラフ化する、作文・作品などのデジタルポートフォリオの準備をする、教科担任から、授業中の様子に関する観察データを収集・整理する、などです。この下準備によって、会議の時間と質が大きく影響を受けます。

第二に、アセスメントでは、教師の専門性や経験に基づ

く専門的な理解、テストの成績や出欠・遅刻情報ならびに心理検査や独自調査に基づく客観的な理解、教育相談やカウンセリングから得られた共感的な理解の三者が、バランスよく行われることが重要となります。

2 心理検査による客観的な生徒理解

学校現場でのチーム援助では、なぜその生徒に対してこのような援助を行うのか、という学内外の問いかけにこたえる必要があります。すなわち、私たち教師には、説明責任(アカウンタビリティ)があります。そこで、客観的な

生徒理解の工夫をしてはどうでしょうか。

図1・表1は、大阪心理出版の「教育相談のための総合調査Ⅱ(シグマ)」の教師用出力・返送される生徒の個人表の一部です。この心理検査から、A子さんの学習不安、自己否定感、閉塞感や疎外感、家庭・学校・学級への不適応感、進路不安などの他、学校や家庭での人間関係、心身の健康状態など、総合的データが得られます。

3 アセスメントシートの活用例

A子さんのアセスメントの結果は、前回提示した表2の

図1 個人表

表2 アセスメントシート例

アセスメントシート		SN 2002001	日時 2002年6月21日(金) 16:00~教育相談室	作成者 宝塚Y男		
出席者	学内 三宮(担任)・須藤(前担任)・宝塚(生指導) 尾崎(生指)・伊内(教職)・星川(教職) 芦屋(C)	学外 八重(大)				
生徒基本情報	氏名	こうべ えい子 神戸 A子	こうべ てい一 神戸 D男	家族構成の概要		
	所属	2年4組	1年1組	父親・母親	父母同居	
	担任	三宮 B男	須藤 E子	きょうだい	小学6年弟	
	SC	あしや レー子 芦屋 C子	あしや レー子	祖父母・他	祖父母別居	
	住所	こうべえつくすく 神戸市X区123-45	TEL 123-45-6789 FAX 123-45-6789	指導要録	1 2 3	
心理教育的査定	学習面	●成績低下が顕著、勉強を拒否してあきらめたよう ●学習意欲が低下している、学習態度が著しく低下している ●友人から外出を誘われることが多く、家庭で落ちこぼれている				
	心理社会面	●卒業生としての自覚が乏しい、進路について不安がある ●クラスには馴染みがない、よくクラスをこぼし、孤立感がある ●親は好きだが、親との関係は悪いこと、親との関係が良好でない				
	進路面	●高校へ進学したいが、進路がどうなるか不安がある ●進路の希望が不明確で、小さい子どもの進路をみたい ●進路の問題もあり、高校進学を両親と相談したことがない				
	健康面	●よく病気に罹り、遅れたというが、学内での進路の必要はない ●進路の希望が不明確で、小さい子どもの進路をみたい ●性的行為に関する興味だけでなく、病気の不安を持っている				
医学的査定	医療機関名	診断日	診断名	担当機関のコメント	診断書	
					有 無	
					有 無	
環境的査定	学校環境	物的条件	●個別の学習・心療の環境の場として、生徒室を利用している ●個別の生徒指導の場として、教育相談室を利用している		1 2 3	
		人的条件	●日常の心療の場は、主に教育相談室で行っている ●担任と学年生徒指導が、協力して生徒指導を行っている		1 2 3	
	家庭環境	物的条件	●アパートに在りてあり、環境は悪くない ●パソコンはなく、学習関連の書籍の所有量も少ない		1 2 3	
		人的条件	●家庭で、共済のため、両親の自営時間が不規則である ●母方の実家が遠いので、祖父に子どもの面倒を頼んでいる		1 2 3	
地域環境	物的条件	●住居が近所にはないため、カラオケ・コンビニが多い ●スナック・居酒屋・飲食店の多い		1 2 3		
	人的条件	●近所ということもあり、子どもの健全育成への意識が高い ●学校の呼びかけに対しては、協力的な反応が多い		1 2 3		
連携情報	連携機関名	担当者名	連携機関のコメント及び助言			
	G警察	西宮日男	●保護者・方角までの連絡があるが、本人の同意は得ない ●保護者の友人に、保護者や成人がなされているので注意が必要である	1 2 3		
				1 2 3		
補足情報	補足事項	補足情報の内容				
	教育相談	●性格は明るく、振られたら嫌といえない人のよさがある				1 2 3
	生徒指導	●周囲の生徒が迷惑をしたり、指導の不公平感をもったり、マイナスの反応が強い				1 2 3
カウンセリング	●予約相談では、一度もカウンセリングの対象となっていない				1 2 3	

(八並光俊、2003)

表1 Σ悩みの状況

進路・将来	(1) 成績がよくないのでなやむ	*
	(2) わからない科目がある	*
	(3) 勉強のしかたがほとんどわからない	*
	(4) 思うような成績がとれなくてなやむ	*
	(5) テストや受験勉強のことでなやむ	*
	(6) 勉強する意欲がわかない	*
	(7) いろんな理由で勉強に集中できない	*
	(8) 進学が就職するまでなやんでいる	*
	(9) 将来、どの方向に進めばよいかわからぬ不安	*
	(10) 進学したいが成績がよくない	*
	(11) 志望校や望む就職先にいけるかどうかの不安	*
	(12) 進路のことで親と意見が衝突する	*
学校生活	(13) クラスの人が変な目で見たりいじめたりする	*
	(14) クラスの人から無視されているように思う	*
	(15) 今のクラスは自分に合わない	*
友人	(16) クラブ活動のことでなやんでいる	*
	(17) 授業中に体の調子が悪くなる時がある	*
	(18) 学校に行きたくないと思ふときがある	*
	(19) 今の学校は自分に合わない	*
	(20) 友人との仲がうまくいかない	*
	(21) 真の友人がいない	*
家庭生活	(22) 身近に悪友がいるので困っている	*
	(23) 父・母とうまくいかない	*
	(24) 家族の仲がよくない	*
	(25) 家族のことで心配ごとがある	*
	(26) 親は私の気持ちをわかろうとしない	*
	(27) 親の期待が大きすぎて重荷になっている	*
	(28) 親に暴力をふるうことがある	*
	(29) 夜おそくまで出歩くことがある	*
	(30) 家庭の経済的な問題でなやむ	*
	ここから健康	(31) いつもまわりから見られているような気がする
(32) 短気でおこりやすい		*
(33) 自分の性格のことで強くなやむ		*
(34) 今の生活は自分の理想とまるで違っている		*
(35) 将来に希望がもてない		*
(36) 死んでしまいたいと本気で思うときがある		*
(37) 胃や腸が弱いので困っている		*
(38) かぜをひきやすいので困っている		*
(39) 喉が痛くなることが多い		*
(40) じんましんやかぶれを起こしやすい		*
(41) 立ちくらみ・目まいがよく起きる		*
(42) 息切れやどろきがある		*
(43) 果物がよいやすい	*	
(44) 夜、よく眠れぬことが多い	*	
(45) 体力・運動能力のことでなやむ	*	
(46) 自分の運動かたち・スタイルで強くなやむ	*	
(47) 異性や性の問題で強くなやむ	*	
(48) 人生の問題でなやむ	*	

(出典：大阪心理出版「教育相談のための総合調査」より抜粋・作成)

アセスメントシートで整理します。記入時は、なるべく要点を簡潔に書くようにすると見やすくなります。この時、私はAdobe社のAcrobatを使用し、ファイルをデジタル文書化します。そうすると、簡単に、画像やファイルにリンクをかけたたり、電子署名を付加して強固なセキュリティをかけることができます。たとえば、表中の1~10までの灰色を着色した四角枠に、デジタルポートフォリオで収集した各種のデータをリンクしておきます。リンクをかける際

は、アセスメントシートを保存するフォルダに、関連するファイルを格納しておくといでしょう。また、データは、外付けのハードディスクやDVDなどに保存します。液晶プロジェクトで投影しながら議論を進めると同時に、関連する情報や詳細な情報を、四角枠をクリックするだけで瞬時に呼び出せます。このような工夫によって、限られた時間で、多角的でより深い生徒理解を行うことが可能となります。

【第8回】

連携重視の個別援助計画の作成

兵庫教育大学助教授
八並 光俊

1 個別援助計画作成前のアセスメント

チーム援助では、初期のアセスメントが成否の鍵を握るといつても過言ではありません。したがって、初期のアセスメントは、1回限りではなく複数回実施し、生徒の状態を広く深く理解するようにしてください。第1回目のアセスメント会議だけで、生徒に関する必要な生徒理解情報がそろえることはまだだといえます。コーディネーター役の生徒指導主事もしくは生徒指導担当教師の情報収集力、事前の準備、事後の情報整理が、アセスメント会議の質に影響を与えます。初回アセスメント会議で話し合われた疑問点や不足情報をアセスメントシートに補足しながら、第2回目以降のアセスメント会議で検討します。

また、非常勤のスクールカウンセラーや保護者、あるいは

は学校外の関係機関の専門家が参加する場合は、時間調整が難しいことが多いので、初回は学校内の教師中心のアセスメント会議を行い、第2回目以降にスクールカウンセラー・保護者・専門家に参加してもらおうとよいでしょう。なお、アセスメントは、特に保護者とのインフォームド・コンセント(説明・同意)の基礎資料となります。この点に配慮して、アセスメントを実施してください。

前月号の中学2年生の神戸A子さんのように、生徒が問題行動を伴っているケースでは、アセスメントシート例のように、初回ではネガティブな生徒理解情報に偏りがちです。問題解決を想定した場合には、A子さんの興味・関心、長所やがんばっている点、効果的であった援助など、解決に結びつきそうなポジティブな生徒理解情報を広く収集することが必要となります。

2 関係機関との連携を重視した個別援助計画

アセスメントの次の段階は、個別援助計画(Planning)の作成です。個別援助計画は、一般には個別教育計画と呼ばれていますが、本論では援助に力点を置いて個別援助計画と呼んでいます。二次的援助の対象となる生徒は、問題の個別性が高いため、その生徒に応じた個別の援助計画が必要となります。最近の生徒指導上の問題は、非常に複雑であるため、学校内の教職員のみだけでは解決が困難です。現在文部科学省がすすめている不登校への対応方法のひとつである「スクーリング・サポート・ネットワーク(SSN)」、学校と関係機関の行動連携モデルである「サポートチーム」、あるいは「特別支援教育」の共通点は、アセスメントに基づく個に応じた指導・援助計画の作成の必要性、学校と教育委員会・専門機関・民間団体等とのネットワーク型の生徒指導体制の確立にあります。

したがって、複雑化する生徒指導の動向やネットワーク型の生徒指導体制の必要性を反映した個別援助計画を作成するとよいでしょう。その際に、アセスメント段階でアセスメントシートを活用したように、個別援助計画シートを活用して個別援助計画を作成します。

3 個別援助計画シートの活用

関係機関との連携を重視した個別援助計画シートの特徴



ルは、図1・1および図1・2に示しています。これは従来のチーム援助シートに、国立教育政策研究所生徒指導研究センターが提示した関係機関の分類を加えて、私が独自に考案したものです。(国立教育政策研究所生徒指導研究センター「問題行動等」の地域における支援システムについて「調査研究報告書」、平成14年3月)

この個別援助計画シートの特徴は、生徒の問題解決で関係する機関を学校を含めて6つに分類し、「どの関係機関の、誰が、どのような援助目標のもとに、どのような援助を行い、それをどのくらいの期間続けるのか」がすぐわかるようになっていきます。6分類の内訳は、①学校・教育委員会・適応指導教室などの教育関係、②保健所・精神保健福祉センター・病院などの保健・医療関係、③児童相談所・福祉事務所・民生委員会などの福祉関係、④警察や少年サポートセンターなどの警察関係、⑤家庭裁判所・少年鑑別所・保護司・人権擁護委員などの司法・矯正・保護関係等、⑥少年補導センター・児童自立支援施設・青少年育成団体・弁護士会・民間団体などのその他です。

この個別援助計画シートは、あくまでも基本型ですので、生徒の初期のアセスメントによっては、他に関係する機関と関係しない機関も生じます。あるいは、問題解決過程に伴って、関係機関も変化していきます。また、この個別援助計画シートは、アセスメントシート同様にセキュリティ意識のデジタル文書にします。これによって、閲覧・検索の簡便化、会議資料としての応用性が促進されます。

図1-2 個別援助計画シート(続き)

個別援助計画シート				SW	日 時 場 所			作成者
生徒名		参加者	学内		学外			
審 察 関 係	代表者名							
	所属機関							
	援助目標							
	援助事項	援助者	援助の具体的内容			援助期間		
司 法 ・ 矯 正 ・ 保 護 関 係 等	代表者名							
	所属機関							
	援助目標							
	援助事項	援助者	援助の具体的内容			援助期間		
そ の 他	代表者名							
	所属機関							
	援助目標							
	援助事項	援助者	援助の具体的内容			援助期間		
留意事項								

(八並光俊, 2003)

図1-1 個別援助計画シート

個別援助計画シート				SW	日 時 場 所			作成者
生徒名		参加者	学内		学外			
教 育 関 係	代表者名							
	所属機関							
	援助目標							
	援助領域	援助者	援助の具体的内容			援助期間		
	学 習 面							
	心 理 ・ 社 会 面							
	道 路 面							
	健 康 面							
保 健 ・ 医 療 関 係	代表者名							
	所属機関							
	援助目標							
	援助事項	援助者	援助の具体的内容			援助期間		
福 祉 関 係	代表者名							
	所属機関							
	援助目標							
	援助事項	援助者	援助の具体的内容			援助期間		

(八並光俊, 2003)

図1-1

個別援助計画シート				SN 2002001	日 時 場 所 2002年7月5日 (金) 16:00~教育相談室	作成者 宝塚Y男
教育関係	生徒名	こうべ えーこ 神戸 A子	参加者	学 内	学 外	八並光俊・宝塚Y男 西島信子・小野健司
	代表者名	たからづかわいお 宝塚Y男	おのじえいこ 小野J子	やつなみえむとし 八並M俊		
	所属機関	Q中学校	R適応指導教室	S大学		
	援助目標	●適応指導教室を中心とした基礎学力の育成と基本的な生活習慣の定着。(R適応指導教室・S大学) ●定用教育相談による母親の心理的安定化と家庭との協力関係の構築。(Q中学)				
	援助領域	援助者	援助の具体的内容			援助期間
	学 習 面	小野 (適応) 八並 (大学)	●学生ボランティアに協力してもらい、電算が簡単に不足している教科に関して個別学習を行い、基礎学力の育成を図る。			7月8日~ 9月30日
	心理・社会面	小野 (適応) 伊丹 (中学)	●体験学習を通して、集団活動の楽しさを味わうと同時に、個人と集団の間隔について理解を促す。 ●母親との週1回の教育相談を通して、心理的安定を図る。			7月8日~ 9月30日
	進 路 面	三宮 (中学)	●保護者との面談を通して、進路情報について理解を促す。 ●A子ならびに保護者に職業士資格取得に関する進路情報を提供し、進路意識を高める。			7月8日~ 9月30日
健 康 面	森木 (中学) 青屋 (中学)	●養育費とSCが協力して、調理・洗濯への助けづくりを図る。 ●SCのカウンセリングを通して、進路への理解を促す。			7月8日~ 9月30日	
保健・医療関係	代表者名					
	所属機関					
	援助目標					
	援助事項	援助者	援助の具体的内容			援助期間
福祉関係	代表者名					
	所属機関					
	援助目標					
	援助事項	援助者	援助の具体的内容			援助期間

(八並光俊, 2003)

チームサポートの
理論と実際

【第9回】

連携重視の個別援助計画の具体例

1 連携重視の個別援助計画の作成

先月号で個別援助計画シートの基本的な書式を示しました。今回は、個別援助計画シートの具体的な作成例について少しお話しします。図1-1と図1-2は、神戸A子さんの初回のチーム援助会議で作成された個別援助計画シートです。以後、名称や内容は架空例です。A子さんのように問題行動を伴う場合の援助は、問題が複雑だけに一度に多くの関係機関との連携を要するのが一般的だと言えます。しかし、現実にはA子さん以外にも問題行動を抱えた生徒や不登校生徒がいるわけですから、最初から欲張った計画を立てずに、解決の見込みが少しでも高いものから検討していくのがよいと思います。

A子さんの場合、学校外での暴走族とのつきあいを早急

に断ち切ることで、高校への進学希望や保育士の資格取得希望があるので、学習面や進路面の援助から自信や希望をもたせることにします。A子さんが立ち直るには、保護者の理解や協力が必要ですので、定期教育相談を通して、母親への心理的なバックアップを行います。それと同時に、進路情報やチーム援助情報の提供を行います。

A子さんが自分を見つめたり、新しい自分を開拓するには、安心して学習や活動ができる環境が必要です。そこで、適応指導教室に協力を依頼し、学習や体験活動の場を確保します。また、法教育的な観点から、自分の行動を考えることも必要なので、問題行動の対応に精通した警察へ協力を求めています。このように初期の個別援助計画では、達成可能な重点目標を決めて、学校・適応指導教室・警察が連携して問題解決への突破口をつくりまします。

兵庫教育大学助教授
八並 光俊

図 2・1

個別援助計画シート		SN	日時	作成者
生徒名	こうべ えーこ	2002001	2002年7月5日 (金) 16:00~教育相談室	宝塚Y男
参加者	神戸 A子	参加者	学内	学外
代表者名	にしわざけーこ			
所属機関	西脇K子			
援助目標	●A子を取り囲む養育環境との関係を築き出す支援力の育成。 ●A子の夏休み期間中の心理的安定化および問題行動の予防。			
援助事項	援助者	援助の具体的内容		援助期間
学習面	西脇 (御前)	●A子と養育環境との関係および育ちを促した予定的の元人との関係を築いた上で、養育に対して「ノー」と言える支援力を育成する。		7月8日~ 8月31日
心理・社会面	西脇 (御前)	●夏休み期間中の心理的安定を促すために相談相手となる。 ●夏休み期間中の養育環境への参加等の問題行動を促さないような自己調整力を、相談や相談を通して育成する。		7月8日~ 8月31日
進路面	三友 (神戸)	●養育環境とA子の関係を築き出す支援力の育成。		7月8日~ 8月31日
健康面	三友 (神戸)	●養育環境とA子の関係を築き出す支援力の育成。		7月8日~ 8月31日

(八並光俊, 2003)

2 個別援助計画シートのデジタル化とセキュリティ
 チーム援助会議で作成された個別援助計画シートは、ア
 セメントシートと同様に、デジタル文書としてセキュリ
 ティを施し、CD・DVD・外づけのハードディスクなど
 に保存します。私の場合は、アドビ社 (Adobe) のア

図 1・2

個別援助計画シート		SN	日時	作成者
生徒名	こうべ えーこ	2002001	2002年7月5日 (金) 16:00~教育相談室	宝塚Y男
参加者	神戸 A子	参加者	学内	学外
代表者名	にしわざけーこ			
所属機関	西脇K子			
援助目標	●A子を取り囲む養育環境との関係を築き出す支援力の育成。 ●A子の夏休み期間中の心理的安定化および問題行動の予防。			
援助事項	援助者	援助の具体的内容		援助期間
学習面	西脇 (御前)	●A子と養育環境との関係および育ちを促した予定的の元人との関係を築いた上で、養育に対して「ノー」と言える支援力を育成する。		7月8日~ 8月31日
心理・社会面	西脇 (御前)	●夏休み期間中の心理的安定を促すために相談相手となる。 ●夏休み期間中の養育環境への参加等の問題行動を促さないような自己調整力を、相談や相談を通して育成する。		7月8日~ 8月31日
進路面	三友 (神戸)	●養育環境とA子の関係を築き出す支援力の育成。		7月8日~ 8月31日
健康面	三友 (神戸)	●養育環境とA子の関係を築き出す支援力の育成。		7月8日~ 8月31日

(八並光俊, 2003)

図 2・2

個別援助計画シート		SN	日時	作成者
電子署名者: 八並M 後	生徒名	こうべ えーこ	2002001	2002年7月5日 (金) 16:00~教育相談室
DN: CN = 八並M後 C = JP、日本、O = S大学、OU = 生徒 指導講座 日付: 2003.10.14 08:36:52 +09'00'	参加者	神戸 A子	参加者	学内
	代表者名	たからづかみいこ	おのじいこ	やつねあきとし
	所属機関	宝塚Y男	小野J子	八並M後
	援助目標	●A子を取り囲む養育環境との関係を築き出す支援力の育成。 ●A子の夏休み期間中の心理的安定化および問題行動の予防。		
	援助事項	援助者	援助の具体的内容	
	学習面	西脇 (御前)	●A子と養育環境との関係および育ちを促した予定的の元人との関係を築いた上で、養育に対して「ノー」と言える支援力を育成する。	
	心理・社会面	西脇 (御前)	●夏休み期間中の心理的安定を促すために相談相手となる。 ●夏休み期間中の養育環境への参加等の問題行動を促さないような自己調整力を、相談や相談を通して育成する。	
	進路面	三友 (神戸)	●養育環境とA子の関係を築き出す支援力の育成。	
	健康面	三友 (神戸)	●養育環境とA子の関係を築き出す支援力の育成。	

(八並光俊, 2003)

クロバット (Acrobat) を活用しています。ア
 クロバットで作成される pdf 形式のデジタルファイルは、世
 界標準となりつつあります。図 2・1 は、作成した個別援
 助計画シートに、ア
 クロバットでパスワードや印刷・編集
 禁止の設定を行っているところ
 です。また、図 2・2 は、
 電子署名を設定して改ざんが
 できないようにしています。

図1 チーム援助実施合意書

□受付番号 第〇〇号 □受付期日 2002年〇月〇日	
教育委員会・学校・保護者間のチーム援助実施合意書	
甲： 〇〇教育委員会	印
乙： 〇〇学校	印
丙： 保護者	印

上記甲・乙・丙の3者は、神戸A子さんに対するチーム援助の実施を合意するものとする。チーム援助実施に際しての合意事項は、以下の通りである。

第一項 甲・乙は当該生徒の生徒指導上の課題解決のために、丙との合意の下に、関係機関と連携してチーム援助を実施するものとする。

- (1) 関係機関については、甲・乙が丙にその必要性等を説明し、丙の合意の下に随時必要と認められた機関と連携を行う。
- (2) 関係機関のスタッフには、スクールカウンセラー・医師・弁護士等の専門職の他に、心の教室相談員や大学生による学生ボランティア等の非専門職が含まれる場合がある。

第二項 丙は、甲・乙のチーム援助に参加し、当該生徒の課題解決に協力をする。具体的には、チーム援助会議に参加し、当該生徒の援助過程の理解と援助方針に沿った家庭内での援助を行うものとする。

- (1) 甲・乙が必要と認める場合は、丙と連携し関係機関の協力を得ながら、学校および関係機関の施設での援助以外に、訪問指導等の方法による在宅での援助を行う。
- (2) 丙は、甲・乙および関係機関による援助に対して協力をし、当該生徒のすみやかな課題解決に向けて努力をする。

第三項 チーム援助実施で収集されたチーム援助情報は、チーム援助関係者以外の第三者に提供してはならない。ただし、生徒指導上必要と認められ、なおかつ丙が合意した内容については、この限りではない。

- (1) 甲・乙ならびに関係機関の守秘義務については、法令に定められた服務規程に従うものとする。
- (2) 関係機関における非専門職スタッフの守秘義務については、当該関係機関の職員に準ずるものとする。
- (3) 丙の守秘義務については、甲・乙と同程度の守秘義務を有するものとみなす。

第四項 チーム援助の結核については、甲・乙・丙の3者の合意の下に書面をもって行うものとする。

- (1) 当該生徒の課題解決が図られたと判断された場合は、甲・乙・丙の合意の下に、チーム援助を終結する。
- (2) 結核の判断に関しては、関係機関の専門的な助言を参考にして行うものとする。
- (3) 結核に際しては、甲・乙・丙の3者の合意によるチーム援助結核書を作成する。

(八並光俊, 2003)

チームサポートの
理論と実際

【第10回】

保護者参加型の
チーム援助実践

兵庫教育大学助教授
八並 光俊

1 保護者との合意形成に基づくチーム援助実践

個別援助計画が策定されると、いよいよチーム援助実践(Implementation)となります。ここまでは、アセスメント→個別援助計画→チーム援助実践と流れていくのかという点です。私の場合、保護者をどう巻き込んでいくかという点です。たえば、今後の学校と関係機関の連携では、出席停止期間中の援助を具体的にどのように展開するかを考えておく必要があります。その際に、学校と関係機関の連携だけでなく、家庭との協力関係の構築が大きな課題となるでしょう。また、個人情報保護法の観点から、チーム援助情報の保守・管理の問題、あるいは保護者からのクレームや民事訴訟なども考えられます。

それらの点を考慮すると、保護者へのチーム援助に関するインフォームドコンセント(説明・合意)はもろろんのこと、チーム援助プロセスにおける保護者とのチーム援助情報の共有が大切となります。また、学内だけでなく、学外の関係機関との連携となると、ますます保護者との合意形成は重要なポイントとなるでしょう。そこで、チーム援助の開始時点、つまりアセスメント以前に、私たちと保護者との間で、十分な話し合いをもつて合意形成をします。具体的には、図1のような教育委員会・学校・保護者によるチーム援助実施に関する合意書を作成して、チーム援助に入っていくのがよいと思います。おかげさまで感じを受けられるかもしれませんが、お互いの責任や協力関係を明記することによって、保護者とのトラブル回避だけでなく、相互の信頼関係や協力関係が強化されます。

図2 チーム援助会議録シート

2	チーム援助会議録シート		SN 2002001	日時 場所 2002年7月19日(金) 16:00~多目的教室	作成者 宝塚Y男
生徒氏名	こうべ えーこ 参加者 神戸 A子	学内	学外	八重(大学)、三木(教員) 藤島(教員)、小野(通応)	
合意確認	学校長	関係機関	保護者		
教育関係					
代表者名	たからづかわいお 宝塚Y男	おのじえいこ 小野J子	やつなみえむとし 八並M僕		
所属機関	Q中学校	R通応指導教室	S大学		
援助目標	●通応指導教室を中心とした基礎学力の育成と基本的な生活習慣の定着。(R通応指導教室・S大学) ●定評教育相談による生徒の心理的安定化と家庭との協力関係の構築。(Q中学)				
援助領域	援助者	援助の具体的内容		援助期間	
学習面	小野(通応) 八並(大学)	●学生ボランティアに協力してもらい、理解が困難に不足している教科に個別学習を行い、基礎学力の育成を図る。		7月8日~ 7月18日	
□経過報告	●大学1年生の女性2名に協力を依頼して、理解が困難に不足している数学と英語の個別学習を隔日に行っている。 ●個別学習が早く目に見えた成果はないが、学習にはまじめに取り組んでいる。(2002_07_17_Support.jpgを参照) ●A子さんの学習への取り組み態度を見た通応児童生徒の一部が、「私も勉強がんばろう」と言っていた。				
□改善事項	●大学教師と学生ボランティアに個別学習用の教材準備を依頼し、学習スタッフを細分化し、砥柱練習を行う。 ●学習進捗については、保護者にも連絡し、家庭において学習努力に対して賞賛がけをしてもらうようにする。				
□援助方針	●A子さんの学習理解力に応じた学習教材を準備し、教員委員の学生ボランティアによる個別学習を継続する。 ●学習の進捗状況については、通応生徒指導主事に報告をし、生徒指導主事から保護者に情報提供を行う。				
心理・社会面					
□経過報告					
□改善事項					
□援助方針					
進路面					
□経過報告					
□改善事項					
□援助方針					

(八並光俊、2003)

2 チーム援助会議の開催

チーム援助実践は、先月号の個別援助計画シートにそって展開されていきます。チーム援助コーディネーターである生徒指導主事の実践段階での大きな役割として、チーム援助会議の開催があります。開催までの具体的な仕事は、左記の通りです。

- ① チーム援助会議の開催に向けて、「何を議題にし、どのようなチーム援助情報が必要であるのか」を関係スタッフの意見を考慮して検討します。
- ② チーム援助会議の日程調整を行い、チーム援助会議の開催アナウンス(日時・場所・議題・参加者等)を保護者ならびに関係スタッフに通知します。
- ③ チーム援助会議に必要なチーム援助情報の整理をします。たとえば、チーム援助データベースによる情報検索やデジタルポートフォリオの整理などが行われます。
- ④ チーム援助会議に提示する経過報告を記載したチーム援助会議録シート(後述のシート)を作成します。
- ⑤ チーム援助会議を開催し、議事録をとると同時に、チーム援助会議録シートに必要な事項を入力します。
- ⑥ チーム援助会議後、チーム援助会議録シートを所定の方法により作成・保存します。
- ⑦ チーム援助会議の報告については、保護者からの合意を得た上で、生徒指導部等で行います。



3 チーム援助会議録シートの活用

チーム援助会議では、アセスメントや個別援助計画と同様に、基本的に紙による資料作成・配布は行いません。紙の場合は、コピー機に会議資料を置き忘れる、シュレッダー処理をしても復元されるなど情報漏洩の危険性が極めて高いからです。チーム援助会議では、ノートパソコンと液晶プロジェクターを活用します。その場合に、図2のようなチーム援助会議録シートを活用してください。

このチーム援助会議録シートは、先月号の個別援助計画シートをベースに構成されています。誌面の関係上、教育関係の「学習面」の援助部分だけを例示しています。個別援助計画シートとの違いは、①シート最上部左端に会議回数がある、②シート上部に合意確認欄(デジタル署名)がある、③援助領域の各領域の下に、「□経過報告・□改善事項・□援助方針」というサブカテゴリーが設定されていることです。①・②については、今回説明を省きます。③について、簡単に説明します。今回説明を省かれています。③については、チーム援助データベースを活用して、「□経過報告」を記入したチーム援助会議録シートを作成しておきます。そして、チーム援助会議の中で、経過報告から議論を深め工夫・改善した方がよい援助について、「□改善事項」をその場で入力します。また、それらを踏まえて今後の援助方針を決定し、「□援助方針」をその場で入力します。合意確認後、セキュリティをかけて保存します。

チームサポートの理論と実際

【第11回】

次期チーム援助に活用可能な評価

兵庫教育大学助教授
八並 光俊

1 チーム援助実践情報の保存の重要性

評価は、個別援助計画に基づくチーム援助実践の積み重ねの節目ごとに行います。学校現場では、学期と学年が大きな節目となります。これらの節目で、チーム援助に関する総合的評価 (E) (Evaluation) を行います。その時に重要となるのは、「私たち教師と保護者、あるいは関係機関の専門家が、いつ、どのような援助を行ったのか、それに対して援助のターゲットである生徒がどのような応答行為をし、どのような変容が見られたのか」というチーム援助情報の整理です。

一口にチーム援助情報といっても、チーム援助実施合意書、生徒のデジタルポートフォリオ、アセスメントシート、個別教育計画シート、チーム援助データベース・データ入

力ファイル・検索ファイル、チーム援助会議録シートなど多種多様です。チーム援助情報の保存という観点あるいは個人情報保護法という観点から、チーム援助情報を分類し、整理することが必要となります。

では、どのようにチーム援助情報を分類・整理すればよいのでしょうか。幸いなことに、チーム援助情報は、すべてデジタル化されていますので、その特性を生かした整理を試みてはいかがでしょうか。

2 階層構造をもつチーム援助実践情報

チーム援助情報を整理する際の分類の仕方には、大分類・中分類・小分類の3つがあります。具体的には、図1のような階層構造化されたフォルダを基準に分類・整理をします。学校現場でのパソコンの利用率は高いので、図1のよう

な階層構造は容易に理解できるかと思えます。図1にそって簡単に階層構造を説明します。

- (1) 第1階層は、大分類に相当します。ここでは、ターゲットとなる(生徒)フォルダが作成されています。フォルダ名は、シリアルナンバ+姓名となっています。もちろんターゲットとなる生徒は、年間で1人とは限りませんが、第1階層のフォルダ名は複数個作成されます。なお、大分類のフォルダ名を実施年(たとえば2002年実施分は、2002_S1)にして、図の第1階層にあたるフォルダをサブフォルダとすることも可能です。この場合は、4階層です。ターゲットの生徒を中心にするのか、時系列を優先させるかは自由に設定してください。
- (2) 第2階層は、中分類に相当します。ここでは(Document)・(Database)・(Portfolio)の3つのサブフォルダが作成されています。(Document)フォルダには、合意書や会議録等の文書情報が格納されています。(Database)フォルダには、チーム援助データベースの操作記録が格納されています。(Portfolio)フォルダには、生徒のデジタルポートフォリオ情報が格納されています。
- (3) 第3階層は、小分類に相当します。先ほどの中分類が、さらにサブフォルダによって細分化されています。そして、それぞれのサブフォルダに、チーム援助実施期間中に蓄積された個別ファイルが格納され



ています。各サブフォルダに格納される個別ファイルの例は、図右端のボックスに記述しています。

- ① (Document) フォルダのサブフォルダとして、(合意書)・(会議録)・(関係書類)の3つが作成されています。(合意書)フォルダには、チーム援助実施合意書・チーム援助最終合意書等のファイルが格納されています。(会議録)フォルダには、アセスメントシート・個別援助計画シート・チーム援助会議録シート等のファイルが格納されています。(関係書類)フォルダには、医療機関の診断書等のファイルが格納されています。
- ② (Database) フォルダのサブフォルダとして、(入力情報)・(検索情報)の2つが作成されています。(入力情報)フォルダには、チーム援助データベースへの入力(挿入や更新)に関するファイルが格納されています。(検索情報)フォルダには、検索(検索や一括処理)に関するファイルが格納されています。いずれのファイルもテキストファイル形式です。

- ③ (Portfolio) フォルダのサブフォルダとして、(学習面)・(心理・社会面)・(進路面)・(家庭面)・(関係機関)の5つが作成されています。領域別に生徒のデジタルポートフォリオ情報が格納されています。

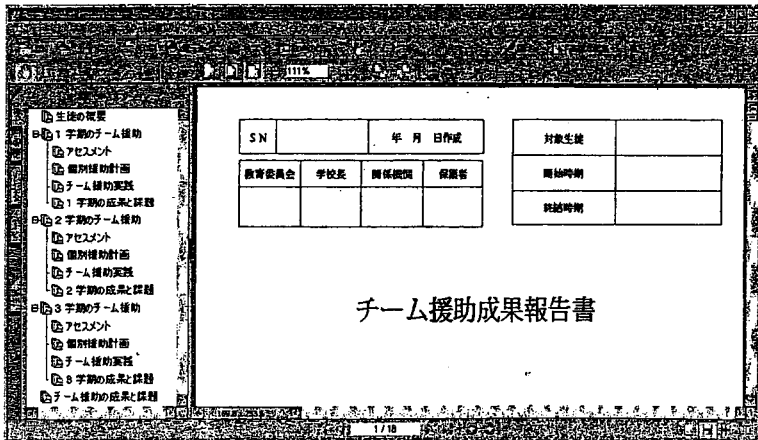
3 チーム援助成果報告書の作成

チーム援助情報の分類・整理に基づいて、チーム援助実践の総合的評価を行います。とりわけ、出席停止など学校・家庭・地域・関係機関の連携を要するネットワーク型生徒指導では、おそらく成果報告書の作成が必要となるでしょう。この成果報告書は、単に私たちのチーム援助の成果や課題を記録に残すということにとどまらず、チーム援助が一年以上にわたる場合には、新年度に編成される新旧のスタッフにとって、過年度の援助経過の理解や生徒理解のための基礎データとなります。

図2は、チーム援助成果報告書の一例です。この報告書は、ワードプロセッサソフトで作成された報告書を、アドビ社のアクトバットというソフトで電子ファイル化しています。本連載の中で、度々とりあげているアクトバット・ディスプレイヤーでファイル出力を行っています。

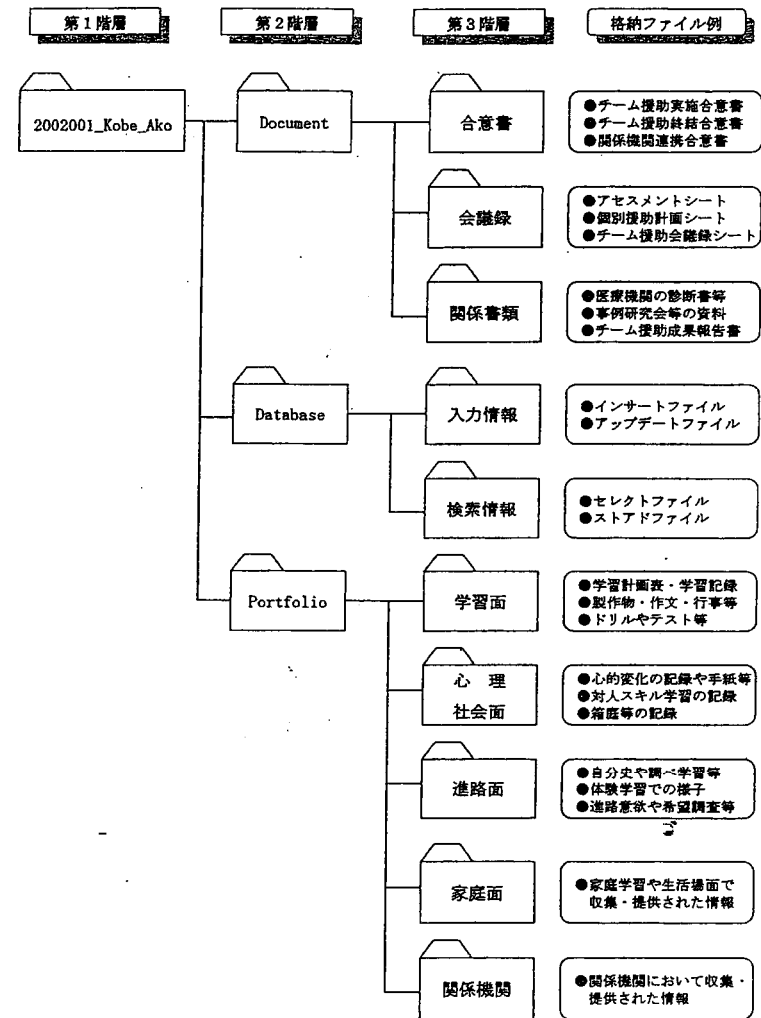
成果報告書の内容は、図左のしおり欄にあるような構成となっています。つまり、表紙は図中央のチーム援助成果報告書です。次のページは、「生徒の概要」というプロフィール情報、その次は、学期ごとに「アセスメント」、「個別援助計画」、「チーム援助実践」、「各学期の成果と課題」、そしてチーム援助の総合的評価として「チーム援助の成果と課題」という構成になっています。電子ファイル化することによって、セキュリティが強化され、またページの挿入や削除・検索が容易となります。

図2 チーム援助成果報告書



(八並光俊, 2003)

図1 チーム援助情報の分類・整理



(八並光俊, 2003)

チームサポートの
理論と実際

【第12回】

困難に立ち向かうチーム援助

(最終回)

兵庫教育大学助教授
八並 光俊

1 チーム援助連載内容の一覧

私のチーム援助に関する連載は、今回で最後となりました。最終回では、生徒指導におけるチーム援助の特色・課題・展望についてふれてみたいと思います。第1回から第11回までのタイトルと節見出しは、次の通りです。

- 第1回(4月号) チーム援助の目的と特色
 - ① チーム援助の必要性
 - ② チーム援助の目的
 - ③ チーム援助の特色
- 第2回(5月号) チーム援助のプロセスモデル
 - ① チーム援助の前提条件
 - ② チーム援助のプロセスユニット
- 第3回(6月号) チーム援助データベースの概観
 - ① チーム援助データベースの重要性
 - ② チーム援助データベースの概要
- 第4回(7月号) チーム援助データベースの実践
 - ① チーム援助データベースの構造
 - ② チーム援助データベースによる検索例
- 第5回(8月号) 効果的なアセスメントへの準備
 - ① 生徒理解のための日常業務の重要性
 - ② デジタルポートフォリオの作成方法
- 第6回(9月号) 効果的なアセスメントの実施
 - ① チーム援助の基盤となるアセスメント
 - ② 効果的なアセスメントの実施上の工夫
 - ③ アセスメントシートの活用
- 第7回(10月号) 効果的なアセスメントの具体例

- ① アセスメント実施上のポイント
- ② 心理検査による客観的生徒理解
- ③ アセスメントシートの活用例
- 第8回(11月号) 連携重視の個別援助計画の作成
 - ① 個別援助計画作成前のアセスメント
 - ② 関係機関との連携を重視した個別援助計画
 - ③ 個別援助計画シートの活用
- 第9回(12月号) 連携重視の個別援助計画の具体例
 - ① 連携重視の個別援助計画の作成
 - ② 個別援助計画シートのデジタル化とセキュリティ
- 第10回(1月号) 保護者参加型のチーム援助実践
 - ① 保護者との合意形成に基づくチーム援助実践
 - ② チーム援助会議の開催
 - ③ チーム援助会議録シートの活用
- 第11回(2月号) 次期チーム援助に活用可能な評価
 - ① チーム援助実践情報の保存の重要性
 - ② 階層構造をもつチーム援助実践情報
 - ③ チーム援助成果報告書の作成

2 協働的生徒指導体制としてのチーム援助

(1) チーム援助のシステム化

学校現場が直面している生徒指導上の問題は、基本的な生活習慣の未定着・飲酒や喫煙・いじめ・不登校・暴力・



性非行・学級崩壊・希薄な進路意識など多種多様です。また、これらの問題は、低年齢化・深刻化・多発化しているのが現実です。この状況を打破するには、学級担任や生徒指導担当教師、あるいは非常勤のスクールカウンセラーの個人的努力のみに期待するのは難しいことです。困難な学校の状況を改善していくには、学内の教職員協働の努力、学校・家庭・地域社会・地方教育行政機関・専門機関等の学内外の協働の努力が必要なのは明らかです。

ある中学教師は、私にこう話しました。保護者の愛情が行き届かず荒れた生徒がいたと。教師への暴力、授業妨害、自校生徒への恐喝、他校生徒とのケンカ、バイクの無免許運転、喫煙・飲酒、女子高校生との異性交遊、数々の補導歴。この中学生に対して、学級担任が一人でどこまで援助することが可能なのでしょうか。どんなにキャリアを積んだベテラン教師であっても、学内外に広く、複雑にからみあった問題を解決するのは難しいでしょう。教師の話では、問題解決にとって、学年集団の結束力、生徒指導部・教育相談部のリーダーシップや実践力、スクールカウンセラーの専門的な力、という学内の力だけでなく、教育委員会の行政的な力、PTAや地域の教育的な力、警察や保健・福祉機関の力などの学外的な力とのリンケージ(つながり)が最も大切だったそうです。

チーム援助は、中学校教師の声にもあるように、学校現場で行われていることです。しかし、多くの学校では、生徒と教師・保護者との橋渡しを担う教師の経験や努力に依

存してきたのではないだろうか。そのため、その教師が異動すると学校に荒れの兆候が見え隠れしてくる。

本連載のチーム援助の特色は、従来教師が、経験則で行ってきた個人技としてのチーム援助を、スクールカウンセリングや学校心理学の理論や実践に基づいて、システム化している点にあります。

(2) チーム援助における協働性の源泉

チーム援助では、学内の教職員や学外の保護者ならびに関係機関の職員や専門家との協働性(コラボレーション)が重要となります。しかし、学内の協働性や学校と異種関係機関の協働性は、自然発生的には生じません。たとえば、小学校の場合は、学級が経営の中心になるため学級担任の指導性が問われます。そのため、なかなか他教師の援助を求めることができません。中学校は、学年ベースですが、学年間や校務分掌間の壁が厚く、不干渉主義的な雰囲気や連携を阻んでいます。

また、学外の関係機関との連携も非常に難しいのが実情でしょう。なぜなら、学校と関係機関との設置目的・仕事内容の違い、学校からの物理的距離の遠近やスタッフ数の多寡、教育や生徒に対する考え方や援助方法の違いなどがあるからです。この他、形の上で連携関係になっているが、責任関係が曖昧な場合も見られます。

チーム援助では、システムティックな援助サイクルにしたがって、生徒理解を行い、援助目標・方法・内容を明確

3 バランスのとれた生徒指導体制とチーム援助

チーム援助は、学校実践としての生徒指導に有効なのか。この問いかけに対して、私は自己の研究や実践、あるいは生徒指導研究や学校心理学研究等の目に見える成果から有効だと断言できます。チーム援助を実践して、誰が一番変わるのでしょうか。私の経験からすると、生徒以上にチーム援助のスタッフである私たち教師・スクールカウンセラーや保護者が変わっていきます。チーム援助は、一見するとシステムティックでスマートな印象を受けますが、実践となると挑戦の連続です。生徒のちよつとした姿容に一喜一憂しながら、試行錯誤が繰り返かえされます。「先生、こうしてみましようか」、「だめか」、「なぜだろう」、「うまくいった、よかった」とさまざまな声が飛び交います。

チーム援助では、生徒の個性、すなわち長所(よさ)や可能性の発見が問題解決の鍵となります。教職員や専門家・保護者による複眼的な生徒理解や実践を通して、今まで見えなかった生徒の多面性が見えてきます。それによって、生徒へのかかわり方の改善や工夫が図られます。同時に生徒や生徒指導に対する考え方も大きく変わります。一人の生徒に対するチーム援助から得られた知見や反省は、他生徒への生徒指導にも応用されます。このチーム援助の二次的な波及効果は、学校改善に寄与します。

チーム援助の限界は、介入型の個別援助という特性にあ

にします。これによって、自分の役割や何をすべきかがはつきりとなります。また、チーム援助データベースやチーム援助会議によって、「今誰が何をして、生徒はどうなっているか」が共通理解できます。そして、自らのチーム援助を反省することによって、次期実践に向けての課題と改善策が明確となります。整理すると、次のようになります。

- ① チーム援助の始期から終期までの流れ(アセスメント ↓ 個別援助計画 ↓ チーム援助実践 ↓ チーム援助評価) が共通理解され、確立されていること
- ② 専門的なアセスメントに基づいて個別援助計画が作成され、役割分担(誰が、どういう目標をもって、何を するのか)が明確にされていること
- ③ チーム援助データベースの活用によって対象生徒のモニタリングがなされ、いつでも状態把握が可能であること
- ④ 定期的なチーム援助会議による援助情報の共有化と援助方法の改善や創意工夫がなされていること
- ⑤ チーム援助を通して、何が起こるまで達成され、何が課題として残されたのか評価がなされていること

このようなチーム援助の明確性や可視性によって、お互いの力を分けあう(分力)、お互いのよさを合わせる(合力)ことが可能となります。この繰り返しから協働性が生じると、いつても過言ではありません。

ります。簡単にいえば、多数の生徒を対象にできない、丁寧だが人手や手間がかかります。チーム援助を有効に展開するには、学級集団をベースとした集団指導による計画的なガイダンス(ガイダンスカリキュラム)が必要です。特に、道徳の時間、学級活動、総合的な学習の時間を活用して、自己理解・対人関係スキル・暴力予防・学習スキル・進路発達等に関する計画的な集団指導による開発的・予防的な生徒指導を行います。また、生徒の早期の問題発見のためのスクリーニングテストや、生徒・保護者に対する定期教育相談も生徒指導計画に組み込む必要があります。要約すると、危機にある生徒に対応する(リアクティブ)チーム援助とガイダンスに代表される開発的・予防的な(プロアクティブ)生徒指導のバランスをとっていくことが重要だといえます。

チーム援助は、生徒の困難に教師の全エネルギーを投入して立ち向かいます。極論すれば、生徒の夢の達成を目指す、教職の専門性とプライドを賭けた教育実践だといえます。そのためには、教師自身の個性化や学よ姿勢が必要だと思えます。最後に、本連載を終了するにあたり、読者の皆様にご挨拶申し上げます。どうもありがとうございました。故湯川秀樹先生がおっしゃっているように、「一日生きることは、一歩進むことである」と、「(外的世界と内的世界)岩波書店・一九七六年」と思っております。今後ともよろしくお願いたします。では、失礼いたします。